

精 い っ ぱ い 頑 張 る

中央区・城山支部 小田原良治
(西田橋有馬病院)

「精いっぱい頑張る」、これは母校・山下小学校の私が在籍していた当時の標語である。山下小学校は、旧尋常小学校であり、歴史のある名門小学校である。私が小学校に入った当時、世の中はまだ戦後の状況が残っており、城山の防空壕跡には人が住んでいた。甲突川の河原にも人の家があった。裸足で学校に来る子もいた。振り返れば急激に変化した時代に生きて来たことになる。この変化の時代に絶えず頭に残っていたのが、母校の「精いっぱい頑張る」の標語である。24～5年前、母校で講演をしたことがあった。その時、後輩の小学生に「精いっぱい頑張る」の話をした。あの時の小学生は頑張っているだろうか。年寄りの冷や水か、最近ふっと小学生に話したことを想いだす。

私が小学校に入学したときは、確か古市校長だったと思う。その後、月野校長に代わった。「精いっぱい頑張る」は、月野校長が掲げた標語だったように思う。薩摩には郷中教育があった。「負けるな。嘘を言うな。弱いものをいじめな。」は郷中教育の教えであり、尋常小学校から続く山下小学校にもこの伝統があった。一方、当時の小学校の正面には「精いっぱい頑張る」の文字が掲げてあったのを覚えている。私が講演をした時は、「負けるな。嘘を言うな。弱いものをいじめな。」は学校の伝統として語り継がれていたが、「精いっぱい頑張る」の標語はもう残っていなかった。「負けるな。嘘をいうな。弱いものをいじめな。」は薩摩の伝統であるが、すべてが「するな」という否定形で終わっている。私はこの否定語に違和感があった。

これが「議をいうな」の風土につながるのではないかと思うからだ。議論を封じ、迎合を強いる。ここに教育としての問題を感じて来た。

「薩摩にバカ殿なし」と言われている。薩摩には島津家という傑出した守護大名が存在した。君主直轄のリーダー教育が行われていたと言われており、小松帯刀、西郷隆盛、大久保利通等のリーダーを輩出している。このリーダー教育が別途存在していたからこそ薩摩の郷中教育は生きたのだろう。「負けるな。嘘を言うな。弱いものをいじめな。」は素晴らしいフォロワー教育だったのだ。

子供時代の何気ない記憶は大事である。70を越えた今でも、当時の山下小学校の標語「精いっぱい頑張る」を絶えず思い出す。「精いっぱい頑張る」の精神は、リーダーにもフォロワーにも重要である。長じて耳にする「自ら顧みてなおくんば、千万人と雖も我往かん」の精神や、「徳不孤、必有隣」の精神は、当時の山下小学校の標語「精いっぱい頑張る」とつながるものがあるだろう。

国際的にも国内的にも難しい時代になってきている。戦争を知らないリーダーの時代になり、今必要なことは、世の中の空気に流されず、立ち止まって考えることである。次世代を担う子供たちには、熟考してなお且つ「精いっぱい頑張る」精神を受け継いで行ってほしいものである。